

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400354		
法人名	医療法人社団桑崎会		
事業所名	グループホームエルーセラ		
所在地	栃木県佐野市免鳥町496 (電話) 0283-20-4501		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年7月23日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日、平成15年3月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算6.4人	
	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算6.2人	
	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> 日用品費—158円/1日 公益費—473円/1日 光熱費—368円/1日 理美容代—1,500円 おむつ代—持込可能、施設内購入も可能 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	315 円	昼食	420 円
	夕食	420 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野医師会病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホーム名の「エルーセラ」はギリシャ語で「自由」を意味しており、1,500坪にも及ぶ広大な敷地には、手入れの行き届いた芝生があり、桜なども植えられており、訪問日には木陰でくつろいでいる入居者の姿も見られた。また、敷地内に家庭菜園があり、ジャガイモやサツマイモなどを栽培し、食卓にものぼり、畑仕事の得意な入居者の活躍する場面にもなっている。月1回のバイキング形式の食事は入居者が好きなものをリクエストしたり、選ぶ機会にもなっている。また、月2回寿司の日を設けるなど食事の提供に力を入れている。入居者の誕生日には、それぞれの入居者の行きたい場所に出掛けたり、食べたい物を食べたり、と個々の要望に応じている。運営推進会議に参加する地域の方が増えてくるなど、地域との関係が徐々に深まってきている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価実施後、「エルーセラだより」を発行したり、アルバムを作って玄関先に置いたりして改善を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者及び各ユニットの主任が中心になって職員から意見を聞きながらまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者、入居者家族代表、自治会や地域の方、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。ホームの活動状況や入居者の状況を詳細に報告している。地域の方の参加が増えてきている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問の際に報告したり、必要に応じて健康状態などを電話で連絡している。前回の外部評価以降に管理者の挨拶や職員紹介を入れた「エルーセラだより」を発行し、入居者の写真を収めたアルバムを作成して玄関先に置くようにした。預かり金管理は行っておらず、必要に応じてホームで立て替え払いをして家族に報告している。各ユニットの玄関に苦情受付方法について掲示している。意見箱も置いているが、苦情は寄せられたことがない。要望などがあつた時は申し送りノートで職員間で情報を共有している。ホームとしては、家族の率直な声を聞きたいと考えている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人として自治会に加入しており、運動会や祭りなどの行事に参加している。草むしり等の地域活動には併設の介護老人保健施設の職員などが参加している。地域の方からスイカや梨などをもらったりすることもある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、職員で話し合っって理念を見直した。「誠意をもって接する」、「個別のケアを重視する」、「日々穏やかに過ごせるよう支援する」をホームの理念としている。	○	運営推進会議などを通して、地域とのつながりが徐々に増えている。今後更に、地域の中での入居者の暮らしやホームのあり方など、ホームの目指す方向性を理念としてまとめていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で話し合っって理念をつくっており、また事業所内に理念を掲示している。毎日の申し送りや会議で話し合いながら、また介護計画作成時に入居者の個別性を大切にしながら理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に加入しており、運動会や祭りなどの行事に参加している。草むしり等の地域活動には併設の介護老人保健施設の職員などが参加している。地域の方からスイカや梨などをもらったりすることもある。	○	運営推進会議に地域の方の参加が増えてきたりと徐々に地域での理解が進んでいる様子が見え始める。入居者が地域につながりながら生活していくことを支えるためにも、今後も地域の方々との接点を積極的につくっていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価実施後、「エルーセラだより」を発行したり、アルバムを作って玄関先に置いたり改善を図っている。運営推進会議にも結果を報告した。今回の自己評価は、管理者及び各ユニットの主任が中心になって職員から意見を聞きながらまとめた。	○	職員間でホームの良いところや現状での課題を共有する意味でも、職員一人ひとりが自己評価に取り組むことにも期待したい。また、自己評価や外部評価の結果をもとに運営推進会議でも助言をもらうなど、評価の機会を更に有効に活用していくことに期待したい。

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族代表、自治会や地域の方、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。ホームの活動状況や入居者の状況を詳細に報告している。地域の方の参加が増えてきている。	○	ホームとしては、メンバーに更に意見や助言をもらう機会として活かしていきたいと考えている。会議の持ち方などにも工夫を加えながら、運営推進会議を活性化しつつ地域とのつながりを深めていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への報告・相談等は管理者や併設の介護老人保健施設が窓口となって行っている。運営推進会議は地域包括支援センター職員の参加となっている。	○	地域密着型サービスとして市と一緒に地域の認知症ケアを推進していくという意味でも、運営推進会議はじめ市の職員と行き来する関係づくりのための働きかけをしていくことにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問の際に報告したり、必要に応じて健康状態などを電話で連絡している。前回の外部評価以降に管理者の挨拶や職員紹介を入れた「エルーセラだより」を発行し、入居者の写真を収めたアルバムを作成して玄関先に置くようにした。預かり金管理は行っておらず、必要に応じてホームで立て替え払いをして家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に苦情受付方法について掲示している。意見箱も置いているが、苦情は寄せられたことがない。要望などがあった時は申し送りノートで職員間で情報を共有している。ホームとしては、家族の率直な声を聞きたいと考えている。	○	運営推進会議の資料は、ホームの様子が想像できるほど詳細に作成されている。プライバシーに配慮しながら、家族により積極的に情報を発信したり、じっくり話をできる機会を設けるなどして更に家族の声を寄せてもらうための取り組みを充実させていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護老人保健施設が併設されているが、異動はほとんどない。この1年ではパート職員の離職が若干あった。職員の交代があったときは、周りの職員がカバーしながら入居者に影響が出ないように配慮している。新しい職員が入った時は、各ユニットの主任がコーチ役になっている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会が2か月に1回（以前は毎週）行われており、ホームからも参加している。認知症介護実践研修などの外部研修は交替で参加している。研修資料や新聞の切り抜き等を回覧して知識の共有に努めている。新人職員には、コーチ役として先輩職員がフォローする仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・全国のグループホーム協会に加入している。質問があったり、行ったり来たりする関係をつくっている事業所もある。	○	職員の意欲や意識の向上という意味でも、今後更に職員同士でもお互いを行き来したり、勉強会を持って行けるような取り組みを検討してみることにも期待したい。また、市などと協力して市内の事業所のネットワークづくりを検討してみることにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族にホームを見学してもらい、「お試し」なども勧めている。環境に慣れるまでは不安になる方もいるが、別のユニットに出掛けて気分を変えたり、職員が働きかけながら徐々に場の雰囲気に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、家事や生け花、裁縫、畑仕事などを一緒に行っている。特に畑仕事では、肥料の撒き方などを入居者や近隣の方に教わりながら、収穫の楽しみを一緒に味わっている。職員は一緒にお茶を飲みながら、戦争体験や関東大震災の体験など昔のことを入居者から教えてもらったりしている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き方に工夫したりしながら、日々の生活の中でホームでの暮らし方について希望を聞き、意向の把握に努めている。また、入居時や家族の訪問時に家族に意見を聞くなどして、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意向は事前に聞いておき、サービス担当者会議で話し合いをしている。会議に参加できない職員からは事前に意見を聞いておく仕組みになっている。また、毎日の申し送り時に職員の気づき等を話し合っている。職員が1人～2人の入居者を受け持つ担当制を取り入れている。	○	ホームとしては、より積極的に本人・家族が介護計画作成に関われるようにしたいと考えている。一緒に生活をつくっていくという観点からも更なる充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し時期を一覧表にし、計画的な介護計画の見直しをしている。また、本人の状態の変化などがあつた時には、医師の指導も踏まえたりしながら、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、通院支援なども柔軟に行っている。また、特に入居者の誕生日にはそれぞれの要望をかなえるための企画をしたりと柔軟な支援に努めている。		

グループホームエルーセラ


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに母体法人のクリニック・医院もあるが、本人・家族の希望する医療機関での受診を支援しており、通院は職員が同行することが多い。経過記録（個人記録）のほか、看護記録もつけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ぎりぎりまでホームで支えた例があり、ホームとして対応できるところまで対応したいと考えている。家族の考え方などは聞いているが、管理者は重度化や終末期への対応は今後の課題であると考えている。	○	今後も適時、本人や家族の意向を把握しながら、また職員間での話し合いも繰り返しながらホームとしての対応方針・方法を検討・準備していくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「ちゃん」付けをしないようにするといったことや排泄の介助など、本人の誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人記録などは、各ユニットのスタッフルームで保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていない。訪問日には、食事の場面でも無理強いせず、本人のタイミングに合わせて支援している様子が見られた。また、一人ひとりの性格や得意なことを活かしたり、選ぶ場面をつくったりと本人の主体性に配慮した支援に努めている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできることに配慮しながら、準備・片付けを一緒にしている。家庭菜園で入居者と一緒につくった食材が食卓にのぼることもある。バイキング、寿司、店屋物など楽しい食事の場面づくりにも配慮している。職員も入居者と一緒と同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前・午後の時間帯で入浴を支援している。現在、夜間の入浴も含めて改めて入居者の入浴に対する希望をとっており、本人の希望にそった入浴支援を更に充実させていきたいと考えている。	○	理念に「個別のケアを重視する」とあり、入浴の場面でも個別性を大切にしたいと考え、取り組みを始めている。本人の希望する入浴を支援するための工夫も検討しながら充実させていくことに期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞とり、洗濯物たたみ、畑仕事、裁縫、生け花、水やり、ぬり絵、カラオケ、散歩、買い物など役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院や買い物、外食などの外出機会のほかに、季節ごとにドライブに出掛けたりしている。敷地が広く芝生や木陰があることから、敷地内で散歩したり、庭で食事をしたりと外気に触れる機会を頻繁につくっている。	○	入居者の誕生日に入居者の行きたい場所に出掛けるなど、入居者の個別性に配慮した支援を心がけている。今後、地域との関係を深めていく中で、日常的に希望にそった外出ができるような環境づくりに取り組んでいくことにも期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、日中、玄関には鍵を掛けていない。広い敷地内を自由に散歩したり、畑仕事ができたりといった環境にはあるが、安全のために門には鍵をかけている。	○	運営推進会議への地域の方の参加が増えていることなどから、今後、地域の中での入居者の暮らしを考えた時に、安全に配慮しながらも門の鍵についての検討をしていくことに期待したい。

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な避難訓練を実施している。敷地続きで介護老人保健施設が併設されており、夜間も5名の職員が常駐している。地域の方々との協力関係づくりはこれから行っていく予定である。	○	人出が少なくなる夜間でも法人内の職員の協力が得やすい環境にはあるが、いざというときのために地域の方々との協力関係づくりを具体的に検討していくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。水分補給については、必要に応じて入居者の好きな飲み物を用意するなどして適切な摂取ができるように配慮している。毎月体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、入居者と一緒につくった季節ごとの壁飾りを飾ったりしている。ホールは広く、畳スペースがあり、また広い玄関にもテーブル・イスのセットが置いてあり、思い思いの場所で過ごせるようになっている。日差しに配慮して高窓をふさいだり、テレビをつけっ放しにしないなど、光や音にも配慮している。換気も適切に行われており、空気のおよみ等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼット、イスはホームで用意されており、テレビや冷蔵庫、畳などが持ち込まれている。自身で生けた花などを飾ったり、壁飾りなどは職員と一緒に飾ったりしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。